



TITLE:

京大広報 No. 499

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 499. 京大広報 1996, 499: 1114-1123

ISSUE DATE:

1996-02-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209134>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 499

京都大学広報委員会

目 次

<大学の動き>

名誉教授称号授与式……………1115

平成8年度入学者選抜学力

試験(第2次学力検査)

の志願状況……………1115

平成8年度入学者選抜学力

試験の第1段階選抜状況…1116

平成8年度医療技術短期

大学部入学志願者状況……1116

<紹介>

木質科学研究所—木質バイオ

マス研究(大)部門……………1117

—京都大学の百年(第16回)—

京大論の構図……………1118

訃報……………1120

日誌……………1121

<随想>

繰返されたマイケルソン・

モーレー実験

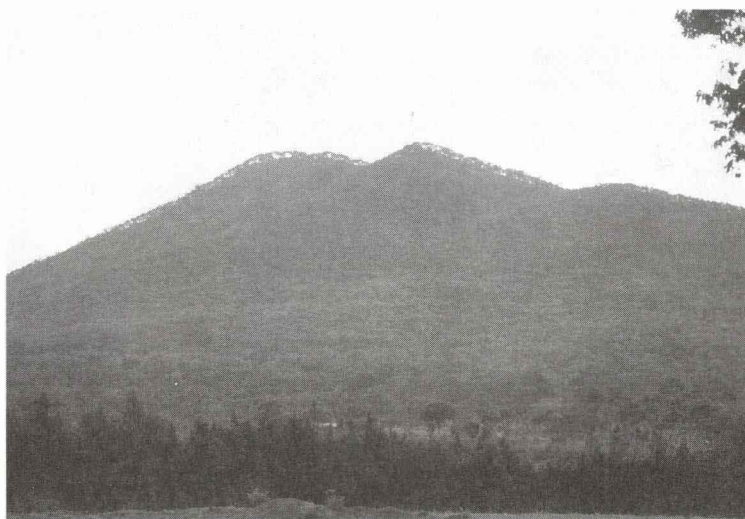
名誉教授 中井祥夫…1122

<コラム>

待ったなし、アフリカの

サバンナ林

荒木 茂…1123



ミオンボ林地帯の開拓村(タンザニア, ルブマ州ムビンガ県)
(10年前は, 下図のような状態にあった)

—関連記事本文1123ページ—

<大学の動き>

名誉教授称号授与式

1月31日（水）午前10時30分から、総長室にお

いて関係部局長出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、梅棹忠夫元教授（人文科学研究所）、畑中正一元教授（ウイルス研究所）および久保田競教授（霊長類研究所）に称号が授与された。

平成8年度入学者選抜学力試験(第2次学力検査)の志願状況

志願票の受付は、1月22日（月）から1月31日（水）までの間に、各学部で行われた。

学部別の入学志願者数は、次表のとおりである。

学 部		募集人員	志願者数	倍 率	(参考) 昨 年 度			
					募集人員	志願者数	倍 率	
総合人間学部	前期「文系」	55人	255人	4.6	55人	210人	3.8	
	〃 「理系」	55	266	4.8	55	268	4.9	
	後 期	20	351	17.6	20	420	21.0	
文 学 部	前 期	190	588	3.1	190	725	3.8	
	後 期	30	464	15.5	30	442	14.7	
教 育 学 部	前 期	40	172	4.3	40	179	4.5	
	後 期	20	147	7.4	20	151	7.6	
法 学 部	前 期	340	1,005	3.0	340	1,028	3.0	
	後 期	60	629	10.5	60	644	10.7	
経 済 学 部	前期「一般」	160	581	3.6	160	592	3.7	
	〃 「論文」	50	342	6.8	50	324	6.5	
	後 期	30	576	19.2	30	520	17.3	
理 学 部	前 期	294	961	3.3	294	989	3.4	
	後 期	32	1,264	39.5	32	1,266	39.6	
医 学 部	前 期	90	476	5.3	90	414	4.6	
	後 期	10	407	40.7	10	334	33.4	
薬 学 部	前 期	70	186	2.7	70	222	3.2	
	後 期	10	153	15.3	10	169	16.9	
工 学 部	前 期	940	2,646	2.8	940	2,729	2.9	
	後 期	110	1,431	13.0	110	1,530	13.9	
農 学 部	前 期	252	736	2.9	252	755	3.0	
	後 期	63	762	12.1	63	679	10.8	
合 計		2,921	14,398	4.9	2,921	14,590	5.0	
		前 期	2,536	8,214	3.2	2,536	8,435	3.3
		後 期	385	6,184	16.1	385	6,155	16.0

(注) 法学部（後期日程）経済学部（後期日程）の募集人員には、外国学校出身者のための選考の募集人員20名以内と10名以内、また、両学部の志願者数には、同選考試験の志願者51名と56名が含まれている。

平成 8 年度入学者選抜学力試験の第 1 段階選抜状況

平成 8 年度入学者選抜学力試験の第 1 段階選抜が行われ、2 月 9 日（金）、志願者に通知された。学部別の受験予定者数は次表のとおりである。

また、第 2 次学力検査は同表に記載の試験場で行われる。最終合格者の発表は、3 月 8 日（金）（前期日程試験）と 3 月 23 日（土）（後期日程試験）の正午に各学部ごとに行われる予定である。

学 部	日 程	募 集 人 員	受 験 予 定 者 数	第 2 次学力検査試験場
総 合 人 間 学 部	前期「文系」	55 人	249 人	総 合 人 間 学 部
	〃 「理系」	55	259	〃
	後 期	20	325	〃
文 学 部	前 期	190	585	総 合 人 間 学 部
	後 期	30	280	法 ・ 経 済 学 部
教 育 学 部	前 期	40	159	法 ・ 経 済 学 部
	後 期	20	140	総 合 人 間 学 部
法 学 部	前 期	340	1,005	関 西 文 理 学 院
	後 期	60	533	法 ・ 経 済 学 部
経 済 学 部	前期「一般」	160	581	法 ・ 経 済 学 部
	〃 「論文」	50	250	〃
	後 期	30	404	〃
理 学 部	前 期	294	944	総 合 人 間 学 部
	後 期	32	1,244	〃
医 学 部	前 期	90	435	医 学 部
	後 期	10	228	〃
薬 学 部	前 期	70	186	薬 学 部
	後 期	10	153	〃
工 学 部	前 期	940	2,640	法・経済学部、工学部
	後 期	110	1,426	工 学 部
農 学 部	前 期	252	733	農 学 部
	後 期	63	761	〃
合 計		2,921	13,520	
	前 期	2,536	8,026	
	後 期	385	5,494	

（注）法学部（後期日程）、経済学部（後期日程）の受験予定者数には、「外国学校出身者のための選考試験」の第 1 次選考合格者 39 名と 29 名を含む。

平成 8 年度医療技術短期大学部
入学志願者状況

平成 8 年度医療技術短期大学部入学者選抜試験は、2 月 29 日（木）と 3 月 1 日（金）の両日に実施されるが、入学願書の受付が 2 月 1 日（木）から 7 日（水）まで行われた。

学科別の入学志願者数は、次表のとおりである。

学 科	募集人員	志願者数	倍 率
看 護 学 科	80 人	220 人	2.8
衛生技術学科	40	352	8.8
理学療法学科	20	210	10.5
作業療法学科	20	122	6.1
計	160	904	5.7

（医療技術短期大学部）

<紹介>

木質科学研究所

—木質バイオマス研究(大)部門—

本研究所は、三大研究部門(木質生命科学、木質バイオマス、木質材料機能)と一客員研究部門

(木質環境)より構成されている。今回は、木質バイオマス大部門の研究の概要について紹介する。木質バイオマス資源を人間の生活に役立つ物質や素材に変換するための基礎・応用研究を行っている当部門には、二分野(バイオマス変換、機能性高分子・物性制御)が含まれている。



バイオマス変換分野では、木質バイオマスおよびその構成成分を微生物やそれが生産する酵素を用いて、あるいは化学的手法によって、アルコールなどの化学薬品、機能性オリゴ糖などの糖類、生理活性物質などの有用物質に変換する研究、リグニン—多糖結合体を各種木材、パルプ、反芻家畜の消化物から分離し、その構造、機能や微生物分解を解明する研究、リグニンを分解する酵素を微生物から分離し、その性質を明らかにするとともに、これらの酵素をコードする遺伝子の構造を解析し、リグニン分解能力を増強した微生物を作出するための遺伝子工学を構築する研究、キノコを使って化学汚染土壌を修復させるバイオレメ

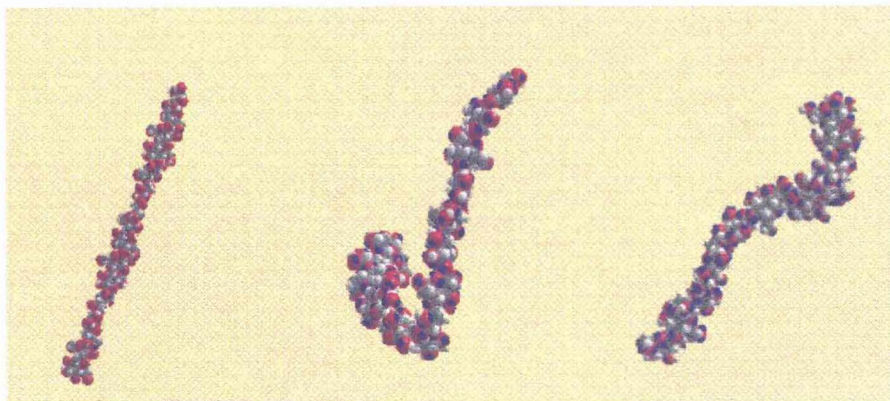
ディエーションの研究などが進められている。

現代は、飽食の時代と言われ、肥満や糖尿病に悩む人が多い。セルロースから得られるオリゴ糖をヒトに投与すると、血糖値を上昇させることなく大腸に達し、腸粘膜の新陳代謝を活発にする酪酸が生成する。このことと関連して、セルロースから成人病予防に効果のある糖質を酵素法で生産する研究や虫歯予防に効果のある糖誘導体の研究なども行われている。

機能性高分子分野では、分光學、X線結晶學、分子シミュレーション等の手法を用い、木質バイオマス構成成分およびその誘導体の構造特性と機能を解析する研究、分子シミュレーションの手法

を用いて、新規特性を示す多糖誘導体分子鎖の化学構造と特性を予測し、新しい機能を発現する機能性材料を設計する研究が進められている。

研究成果の一部の紹介として、図にセロオリゴマー16量体の分子運動の一部の



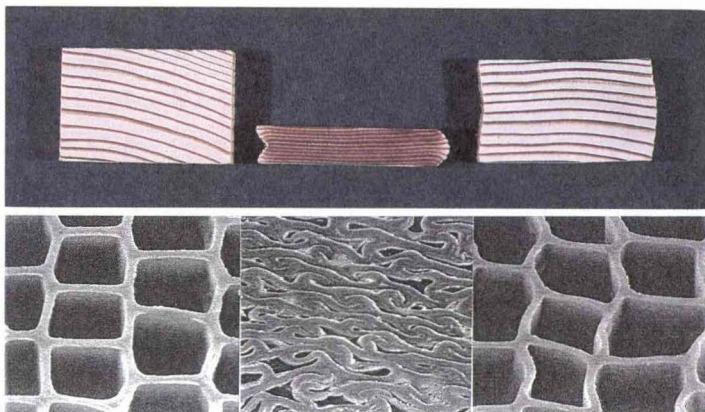
(図) セロオリゴマー16量体の分子運動のスナップショット

スナップショットを示している。

物性制御分野では、木材の大変形に伴う細胞の形状の変化をフーリエ変換画像処理法を用いて解析する研究、種々の木製楽器用材、リード用材の音響特性を調べ、それらを選別、改良する研究、熱軟化を応用した曲げ木加工、横圧縮加工、表面加飾などの加工に関する研究、物理、化学処理によって木質バイオマスの物性を制御する研究、客員研究部門と共同して、木材による温湿度調節機能を明らかにし、住宅内における気候制御設計を行う研究などが進められている。

写真に示すように、木材に水を含ませ（上左）横圧縮し乾燥すると変形は固定する（上中）。この変形の固定をドラインゲットと呼ぶ。しかし、それを熱水に漬けると変形はほぼ元の状態に戻る（上右）。下段は、それぞれ上に対応する走査型電

子顕微鏡写真であるが、圧縮および回復の過程で、細胞の壁の切断や細胞相互の剥離などの損傷は認められない。木材は“形状記憶材料”である。トピックスとして、横圧縮したスギ材を熱処理または高圧水蒸気処理によって永久固定し、密度の高い優れた物性をもつ圧縮木材の開発が行われている。



（写真） 木材は形状記憶材料？

（木質科学研究所）

—京都大学の百年（第16回）—

京 大 論 の 構 図

京都大学の歴史をふり返るにあたっては、ジャーナリズムなどによる京都大学への評価の歴史も重要視されねばならないであろう。未着手ともいえるこの領域を埋めていくための一端として、ここでは昭和初頭の一文献を紹介してみることにはしたい。タイトルはそのものずばり『大学評判記』である（榛名譲著、昭和8年、日本公論社刊）。なお、正確さよりもオーヴァーな表現などによって、おもしろく読ませることが主眼となっていることは予め留意されたい。

「東京帝大モンタージュ」の章に続いて、「京都帝大の勢力網」のタイトルで京都大学が論じられている。

「明治日本の各分野を独占した東大閥の専横に対する憤懣は、期せずして京大の誕生によって、その活躍舞台への門戸開放を発見せしめた。京大建学の当初から“東大打つべし”の気魄と熱とが、横溢していたのである。その古豪の王座に肉薄せんとする絶えざる努力と奮進こそ、凝ってはここに東大に対立拮抗しうる京大王国を完成しえたのだ。」（以下引用は原文を現代表記にあらため適宜要約してある。）

こうしたスタンスで各学部の紹介が行われていくのだが、ここでは医学部と文学部とを看一看にしよう。

「学部長戸田正三博士の衛生学に於ける、辻 寛治教授の内分泌における、松尾 巖教授の胆石病研究における、真下俊一教授の心臓における、鳥潟隆三教授の煮沸沈澱における、清野謙次教授の生体染色における、岡村秀一教授の子宮癌における、星野教授の前庭迷路における、等々（あげればまだいくらかもある）の研究は、いづれも独創斬新、質量共に他の追随を許さず、京大医学部をして、西の大本山たらしむるに充分だ。のみならず、日本の医学をして世界一流の水準にまで進出せしめた動力の主要な

一部をなしたものでさえあるのだ。」

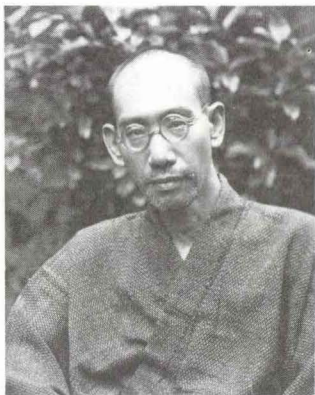


戸 田 正 三 博 士

「日本の東洋史学界では一代の碩学というにふさわしい内藤湖南博士や故桑原隲蔵博士、それに支那文学が専門であったが歴史にかけても専門家に譲らなかった狩野直喜博士等の存在によって、京大の文学部が、久しく斯界の覇を唱えたものであるが、それらの巨星連が相次いで名誉教授となって現役から退いても、西域学に学部長の羽田 亨博士等があって、光輝ある王座を守っている。

東洋史学とともに、哲学もまた、京大の誇りである。『善の研究』で一世の青年をひきつけた西田幾多郎博士は停年で引退したとはいえ、高弟田辺 元博士があって深遠無比な数理哲学を講じ、また山内得立教授あって新しき現象学を唱導し東大の沈滞に比して一步先んじていることは否定できない。その他考古学の浜田耕作博士（前文学部長）等々の権威を網羅していることは、何という心強さであろう。」

やはり「東大の沈滞に比して」というフレーズが入ってくる。



西 田 幾 多 郎 博 士

かも東大や「政府」に対抗する存在として京大が期待されていることが強うかがえる。今日、一方ではそうした「生氣潑刺さ」が失なわれつつあるように感じられるし、他方では京大論はなおこうした「構図」によってのみ語られているという感もある。京大人を規制してきた「京大論の構図」の功罪とは何か。あらためて考え直すべき時期にきているかもしれない。

このように業績の偉大さが紹介された後、次のような形で歴史的生成のプロセスが説明されていく。

「当時東大の青山胤通博士に対立して“青山王国何ものぞ”と高く自負していた外科学界の傑物猪子止戈之助博士が京大医科創立委員長として荒木寅三郎博士らと新王国の建設に取りかかり、東大医科独占の日本医学界を東西に両断しようと試みた。その気魄と熱と努力とは、着々効を奏して、早くも創業十年にして京大医科は東大医科にとって恐るべき一大敵国として出現した。三十年を閲する今日では、完全に天下を両分して、その一を保っている実勢力を築き上げている。」

こうした京大論の「構図」が見えてきたように思われるのだが、では文学部の方はどのように描かれているであろうか。



羽 田 亨 博 士

こうして最後の総まとめに入る。

「以上を通観して感じることは、居眠りしているような京都の風物とは、似もつかぬ清新活潑な異色ある学風を、京大が特色としていることだ。東大に拮抗して、そのカビ臭い古い学説をこっぴどく打ち壊そうとする進撃的な研究熱、それに地理の関係もあって、政府の顔色や鼻息を窺わない奔放な生氣潑刺さ、それらは京大をして西日本の覇者たらしめたが、同時にまた帝都をはじめ全国の学府を刺激して、わが学界に絶えず清新の気を注入してきた。今や大学の没落が高唱されているが、春風秋雨三十余年誰が何といっても京大は関西における学の淵藪たりし歴史を無視することはできない。」

結局、こうした知的ジャーナリズムによる京大評価は、たえず東大との対比において語られているところに一特色があるといえよう。し

（百年史編集委員会 筒井清忠）

訃 報

於保不二雄 名誉教授

本学名誉教授 於保不二雄 先生は、1月14日逝去された。享年87。

先生は、昭和7年京都帝国大学法学部を卒業、同年京都帝国大学助手、同8年立命館大学助教授、同9年再び京都帝国大学助手に採用され、同10年京都帝国大学助教授、同18年京都帝国大学教授に昇任され、民法講座を担当された。昭和46年停年退官され京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和22年2月から同24年2月までおよび同29年3月から同31年3月まで京都大学評議員、同34年1月から同35年12月まで法学部長を歴任され大学の管理運営に貢献された。

この間、学外においては永年にわたり司法試験考査委員、法制審議会民法部会委員を務め、法曹の養成および立法事業に貢献された。また、学内では、昭和21年より同46年の退官までの25年間の長きにわたって、法律相談部の顧問として、毎週土曜日の午後「市民のための無料法律相談」に携わり、学生を指導しつつ市民への奉仕に献身された。

本学退官後は、弁護士として企業法務の整備等に尽力された。

先生のご研究は、民法学の全分野にわたり、とくに19世紀以降のドイツ民法学を深く研究され、その基盤の上に独自の民法解釈学を構築された。その代表的著書の一つである『財産管理権論序説』は、近代私法の基礎構造を解明し、我が国で初めて、「財産管理権」概念を独立の権利のカテゴリーとして構成すべきことを提唱したものであり、その後の民法学の発展に大きな影響を及ぼした。そのほかに、主な著書として、『民法総則講義』、『物件法（上）』、『債権総論』などがある。

これらの功績により昭和54年4月勲二等旭日重光章を受章、平成7年11月には文化功労者に選ばれた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(法学研究科)

兒玉信次郎 名誉教授

本学名誉教授 兒玉信次郎 先生は、1月17日逝去された。享年89。

先生は、昭和3年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業、財団法人理化学研究所助手を経て、現住友化学工業株式会社に入社後、昭和14年3月京都帝国大学工学部燃料化学科（同41年4月石油化学科に改組）が設置されたのに伴い、同学部講師を嘱託された。昭和15年には教授に任ぜられ、草創期の教室の充実と、教育ならびに研究を通じ発展の基礎を確立され、その間本学化学研究所研究嘱託、教養部の教授を併任され、同32年7月に辞職されるまで多くの人材の養成に当たられた。また、昭和24年1月から同25年11月まで京都大学評議員、同30年4月から同32年3月まで工学部長として、大学運営に貢献された。

学外においても、浪速大学（現大阪府立大学）教授、日本学術会議会員、原子力委員会参与、日本原子力研究所参与なども勤められた。

本学退官後は、住友化学工業株式会社に再度入社、昭和40年副社長に就任され、我が国の化学工業の興隆に大きく貢献された。またこの間、学術審議会委員、大学基準研究協議会委員、工業技術協議会臨時委員等の公職も兼ね、さらに社団法人日本化学会、化学工学協会、日本特許協会、近畿化学工業会などの会長を歴任され、学会のみならず産業界においても輝かしい功績を残された。これら一連の研究教育活動、学界産業界活動により、昭和45年4月藍綬褒章、同49年には京都大学名誉教授の称号、同51年11月には勲二等瑞宝章を受けられた。

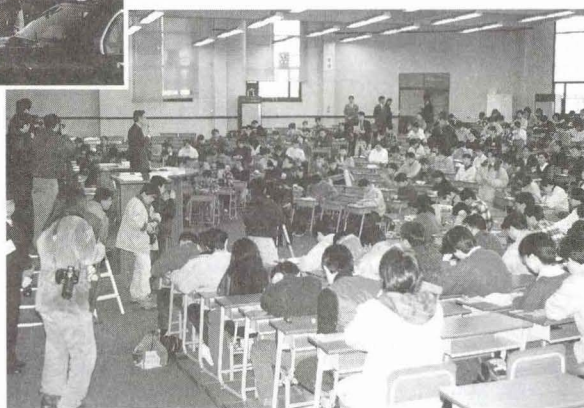
ここに謹んで哀悼の意を表します。

(工学部)

日 誌

(1996年1月1日～1月31日)

- | | |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 1月4日 新年名刺交換会 | 22日 同和・人権問題委員会 |
| 8日 名誉博士称号贈呈式 | 23日 評議会 |
| 9日 評議会 | 〃 学位授与式 |
| 10日 マレーシア マレーシア理科大学 Jamjan Rajikan 副学長他3名来学，関係教官と懇談 | 29日 附属図書館商議会 |
| 12日 連合王国 サセックス大学 A.J. McCaffery 副学長代理来学，総長および関係教官と懇談 | 〃 総長，職員組合との交渉に出席 |
| 13日 大学入試センター試験（14日まで） | 〃 ベルギー王国 ルーヴァン大学 Christian M. Delporte 経営学院長他2名来学，関係教官と懇談 |
| 17日 国際交流委員会 | 31日 名誉教授称号授与式 |



大学入試センター試験風景（1月13～14日）

